

「美しい」履歴書の時代

黒川 清 政策研究大学院大学教授／
元・日本学術会議会長

Kurokawa Kiyoshi



撮影：佐久間哲男

新創刊10周年おめでとうございます。

日本の多くのリーダーの履歴は「すばらしい」大学卒業後すぐに「すばらしい」組織に入り、そこで基本的に年功序列で昇進していく、男性中心の「タテ」の単線路線だ。これは日本特有の社会通念なのだ。いまや政治も、産業も、大学も、課題は「ヨコ」へ広がる、グローバル世界に広がる「個人」のネットワークこそが、価値を持つ。そのような人をどれだけ持っているか、これが組織でも、国でも、大きな価値を持つのがグローバル時代だ。

産業、政府をはじめ、社会的に責任の大きい立場の多くの方の海外経験は、組織のなかの出張であり、昇進プロセスでの海外だった。時代は変わった。「タテ」ではなく「ヨコ」に広がる「個人力」の世界になったのである。組織とは独立した個人の人脉が大事なのである。それには「自分のやってきたことの一貫性と説得力」のある「美しい」履歴書こそが意味を持つ。まず、学生時代には休学してでも世界へ出てみることだ。

若いときにこそ自分を見つけよう。『一橋ビジネスレビュー』は、そのよき羅針盤となるだろう。